

来期(2007年3月期)の業績の見通し

来期は国内外で堅調な景気が続くと思込まれる一方で、一層の原油及び原材料の価格上昇、円やアジア通貨の変動、国内外での金利引き上げ、国内外での競争激化などが懸念材料としてあります。また、電子部品業界では調整色が見られる分野もあります。しかし、今後も情報通信機器やデジタル家電などの市場の広がりは続くと思われ、自動車や航空機産業も需要の拡大が続くと期待されます。そのような事業環境のもと、当社では、成長事業では積極的な投資と基盤強化施策を実施し着実な事業拡大を実現できる体制を整備する一方で、課題事業においては収益改善を最優先事項として改善施策に取り組みます。以上の状況を踏まえて、当期末現在における来期の業績は、売上高が310,000百万円に微減(当期比)、営業利益が25,000百万円に増加、当期純利益が10,000百万円に増加と思っています。

事業等のリスク

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクを以下のように考えております。なお、文中の将来に関するリスクは、有価証券報告書提出日(2006年6月29日)現在において当社グループが判断したものであります。

(1)市場環境

PC及び周辺機器、情報通信機器、家電を中心とする当社製品の主要市場は、国内外において競争が非常に激しく、需要が大きく変動するため、経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2)為替変動

当社グループの海外売上高比率は高いため、為替相場の変動によるリスクがあります。このため為替予約を中心とするリスクヘッジ取引を行っておりますが、長期的には為替変動により経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3)研究開発

新規製品・高品質製品を市場に継続的に投入する必要があるため研究開発を行っておりますが、研究開発の成果は不確実なものであり、多額の支出を行ったとしても必ずしも成果に結び付かないというリスクがあります。

(4)重要な訴訟等について

国内及び海外事業に関連する訴訟等の対象となるリスクについては、法務部門が一括して管理しております。将来、重要な訴訟等が提起された場合には、当社グループの経営成績及び財政状態等に重要な悪影響を及ぼす可能性があります。

(5)価格交渉

海外製の低価格製品との価格競争は大変厳しいものとなっており、低品質、低価格のニーズを持つ市場では市場シェアを維持・拡大できない可能性があります。

(6)原材料費・物流費等のコスト

外部からさまざまな原材料等の調達を行っており、在庫量の最適化、安定供給と安定価格の継続をはかっておりますが、原材料等の価格上昇が経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7)海外進出に潜在するリスク

当社グループの生産の多くは、タイ、中国、シンガポール等海外で行われております。海外進出後、長期間が経過し、地場との融合が行われておりますが、予期しない法律又は規制の変更、人材の採用と確保の難しさ、テロ・戦争及びその他の要因による社会的混乱といったリスクが内在しております。